

# 令和3年度 学校評価計画表

奈良県立奈良朱雀・奈良商工高等学校（全日制課程）

学校運営方針（4月）						総合評価
教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権を尊重する民主的な社会の形成者として、豊かな人間性と創造性を備えた生徒を育成する。</li> <li>○ ものづくりとビジネスの実習・演習を通して、専門的な知識や技術・技能を身に付けた社会に貢献できる生徒を育成する。</li> </ul>					
学校運営方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域社会・地域産業と連携・協働し、高等学校普通科教育並びに工業科・商業科等に関する実践的な教育を展開し、地域を担う将来のスペシャリストを育成する。</li> <li>・ 生徒一人ひとりの成長を支援し、生徒自らが自身の成長を実感できる教育を推進する。</li> </ul>					
昨年度の成果と課題	本年度の重点目標	具体的目標				
<p>主体的に挨拶ができる生徒が増えてきた反面、日常の規範やモラルがしっかりと身に付いていない生徒が一部いることから、規範やモラルの大切さについて職員の共通理解のもと、あらゆる角度から指導していく必要がある。</p> <p>主体的で意欲的な生徒の育成と、工学系とビジネス系を併設する専門高校として、特色ある学校づくりを推進するため、あらゆる教育活動の場面で全教職員が目標を共有し、協働して教育活動を進める必要がある。</p> <p>令和4年度の新教育課程導入に向け、工業科と商業科を併設する学校としての特色をさらに打ち出し、なお一層魅力のある学校となるように教育課程の編成を進める。</p>	(1) 工学系とビジネス系等に関する基礎的基本的な知識や技術・技能を身に付けさせ、社会の様々な変化や多様な課題に対応することのできる力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門教育の活性化を図るとともに、商工協働型の探究学習の在り方を検討する。</li> <li>・ インターンシップ・デュアルシステムを推進し、地域社会・地域産業との連携・協働を進める。</li> </ul>				
	(2) 規範意識を高めさせるとともに、社会の一員としての自己の役割について認識させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 挨拶、身だしなみ、清掃、時間厳守などの指導を重視し、社会性と規範意識の向上を図り、自己有用感を高めさせるとともに、地域からも信頼される学校づくりに努める。</li> </ul>				
	(3) 目的意識をもち協働的に粘り強く取り組むことができる精神力や体力、協調性を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部活動の活性化により、達成感、連帯感、協調性を育む。また、身体測定、健康診断、体力テスト等を用いて自己の体の状況を適切に把握させ、体力向上の重要性を認識させる。</li> </ul>				
	(4) 安全教育の充実を図るとともに、感染症対策を含め安心して学校生活を送ることのできる環境の整備に努め、安全衛生管理体制を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じるとともに、あらゆる活動場面において環境の整備を適切に行う。また、生徒の防災、減災意識を高める指導を徹底する。</li> </ul>				
	(5) 学校の魅力や特色を校外に積極的に発信するとともに、地域の一員としての学校の在り方を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校ホームページをはじめ広報活動を充実させるとともに、感染防止に留意し、地域の一員として、地域に貢献できる取組を推進する。</li> </ul>				
	(6) 教職員の健康管理を重視し、働き方改革推進のため勤務時間等の把握と管理を徹底し、より質の高い教育活動に繋げる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各分掌、学年等が担う業務を明確にし、適宜個人面談や連絡会等の機会を設けて教職員間の円滑な連携や協働体制を構築する。</li> </ul>				
教育活動・分掌等	評価項目	具体的方策・評価指標等	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	課題の改善策等	学校関係者評価及び改善方策
教務	・ 成績不振生徒減少に向けた取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学期成績不振生徒の減少（不振科目1科目以上保有生徒10%以上減）を目指す。 [A:10%以下 B:15%以下 C:20%以下] (昨年度1学期9.3% 2学期17.8% 学年末3.7%)</li> </ul>				
	・ 家庭における学習時間の増加に向けた方策の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本年度各学年「まったくやっていない」生徒の減少を図る。[A:5%以下 B:10%以下 C:15%以下] (昨年度1学期5.5% 2学期9.3%)</li> </ul>				
	・ 授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業アンケート質問事項「総合的に言って、この授業に満足している」の回答において〈そう思う〉・〈だいたいそう思う〉合わせて80%を目指す。 [A:80%以上 B:75%以上 C:75%未満] (昨年度1学期83.5% 2学期82.4%)</li> </ul>				
生徒指導	・ 基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遅刻防止の指導を徹底し、昨年度比10%減を目指す。 [A:10%以上 B:5%以上 C:5%未満]</li> </ul>				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休憩時間等に校内巡視を行い、スマホ使用禁止を徹底する。</li> </ul>				
	・ 規範意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎朝、担任による服装、化粧指導を行う。</li> </ul>				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月1回頭髪の点検を行う。</li> </ul>				
	・ 道徳心の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 挨拶を励行する。（挨拶運動の積極的な展開） [生徒会等による挨拶運動1回/月]</li> </ul>				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎朝の登校指導や校外巡視を行い通学マナーの向上を目指す。</li> <li>・ 交通安全教室、薬物乱用防止教室、情報モラル講習会等を実施する。 [各学年1回/年]</li> </ul>				
・ いじめの防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学期毎にいじめアンケート調査を実施し、早期の発見、解決に努める。 [いじめ対策委員会2回/学期]</li> </ul>					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 悩みを抱えている生徒には当該担任だけではな</li> </ul>					

		く教育相談係を中心に学校全体で支援に当たる。 [教育相談担当者・S Cとの連絡会を学期に1回開催する。A:年間4回以上 B:3回 C:2回以下]					
進路指導	・就職指導の充実	・就職希望者に対して、自己を知り、受験先の情報を知ることの重要性を伝える。					
		・面接指導や就職試験対策指導を充実させ、就職試験に対応できる力を身に付けさせる。 [1次試験内定率： A:85%以上 B:80%以上 C:80%未満]					
	・進学指導の充実	・進学の受験制度や、進学費用について、周知に努める。					
		・進学希望者に対して、自分が何を学びたいのかをしっかりと考えさせる。 ・進学希望者への補強講座を充実させ、国公立大学を含めた専門高校推薦、公募推薦に対応できる実力を身に付けさせる。 [国公立大学等進学者数： A:2人以上 B:1人 C:0人]					
・インターンシップ、デュアルシステムを活用したキャリア教育の推進	・進路指導部と各学科、学年が連携し、インターンシップやデュアルシステムを通して職業観、勤労観を育む。 [インターンシップ参加人数の割合： A:60%以上 B:50%以上 C:50%未満]						
人権教育 (特別支援)	・基本的な人権尊重の精神を根本とした全人的な成長を保障するための教育活動の充実	・生徒の実態や社会の変化に適応した人権HRを企画、立案する。振り返りを行い、理解度を深める。 [アンケート調査において 「よくわかった」「わかった」という回答 A:75%以上 B:60%以上 C:45%以上]					
		・人権啓発集会、職員研修を実施する。職員研修は年1回以上行う。					
	・特別支援教育体制の充実	・配慮を要する生徒の把握に努め、教職員、生徒、保護者の共通理解により支援と指導の充実を図る。					
図書	・読書活動を通じた、思春期の豊かな感受性の育成と自己形成力の醸成	・朝のMSRなどを通じて、図書への関心を高めるための読書活動を推進する。 [アンケート調査における肯定的評価 A:80%以上 B:65%以上 C:50%以上]					
		・図書館利用の授業を推進し、読書習慣の定着に努める。 [図書館利用授業回数延べ10回以上] (昨年度2回)					
特別活動部	・生徒会活動及び各種委員会の活性化	・生徒会活動全般を通して、生徒会役員の自主的、自発的な意識向上に努める。 [生徒会による挨拶運動の実施 A:年間6回以上 B:5~3回 C:2回以下]					
		・文化祭や今年度の100周年記念などの各行事、活動において各種委員会、各分掌などと連携して運営に取り組む。					
	・部活動の活性化	・部活動への加入率の向上及び維持を目指す。 [A:65%以上 B:55%以上 C:45%以上] ・部活動活性化のための、集会等での働きかけ、情報発信に注力する。					
保健体育	・生徒の健康保持増進を高めるための基本的な生活習慣	・健康調査票等の集約を周知し早期に共通理解を得る。					
		・食育に関するアンケート調査を実施する。					

	と運動習慣の構築	・スポーツテストによって運動習慣のアンケート調査を実施する。					
	・運動部加入率を上げることによる基礎体力の向上	・運動部への加入率増を目指す。 [A:55%以上 B:45%以上 C:35%以上]					
		・運動に関心をもたせ、毎時間トレーニングの時間を確保することにより運動習慣を構築させる。体力テストの合計得点を過去5年の学年別平均点からの向上を目指す。 [A:3点 B:2~1点 C:0点以下]					
	・健康調査等における計画的、継続的な取組	・健康診断によって受診勧告を受けた生徒には家庭との連携を密にし、受診率を上げる。 [A:100~90% B:89%~75% C:74%以下]					
		・寛解、治癒の報告数を高める。					
		・感染症対策として教員間の連携を図り、予防と初期対応を行う。					
環境整備 【防災管理・安全教育】	・環境美化の啓発	・日々の清掃活動をとおして地球温暖化を踏まえた環境意識及び実践力の向上に努める。校内全体の清掃を年4回以上実施する。 [A:6回以上 B:5~3回 C:2回以下]					
		・計画的な清掃活動を実施し、快適な学校環境の向上を目指す。					
		・清掃用具の適切な配当を図る。 [委員生徒による年2回の配当状況確認作業]					
		・ゴミの分別、減量化及び省エネ等に努め、持続可能な社会に対する取組を進める。					
		・「花いっぱい運動」を実施する。					
		・植栽活動を行い、環境向上を目指す。 [生徒参加の植栽活動を年2回実施]					
	・防災、安全教育の充実	・生徒の安全意識を高め、自己防衛のための判断力の向上を図る。					
		・教室掲示や避難訓練による避難経路の意識付けを行う。					
		・避難訓練および防火訓練を、それぞれ1回以上実施し、防災意識及び実行力の向上を目指す。 (昨年度1回実施)					
総務	・情報発信の推進	・生徒、保護者連絡システムを広げ、緊急事態に即応できる連絡体制を充実させる。					
		・学校への関心が高まる広報活動としてホームページの内容を充実させる。 [HP上の全日制NEWSのアップロード数 A:80回以上 B:65回以上 C:50回以上]					
	・100周年記念事業の推進	・同窓会や育友会との連携を深め、100周年記念事業を推進する。					
機械工学科	・学科の特色や魅力の発信と活性化	・学科のホームページを積極的に更新する。 [A:6回以上 B:5~3回以上 C:2回以下]					
		・地域において、製作物やパネルの展示をする。 [A:3回以上 B:2回 C:1回以下] (昨年度2回)					
		・取組の様子を、校内でも積極的に啓発する。 [A:4回以上 B:3~2回 C:1回以下] (昨年度3回)					
		・技能検定の合格率を向上させる。 [A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上] (昨年度75%)					
	・地域社会との連携教育推進	・デュアルシステムを積極的に推進する。 [2社以上/年] (昨年度2社)					

	・動画教材の開発	・各科目の基礎基本や要点を精選し、効果的な動画教材を試作する。 [A:3本以上 B:2本 C:1本以下] (昨年度1本)					
建築工学科	・3つのコンセプト「伝統技術の継承」「先端技術の習得」「起業家育成」を基に様々な取組の推進	・コンセプトに沿った取組が報道機関に掲載されるようにする。 [5回以上/年] (昨年度6回) ・コンセプトに沿った取組も含めて「本学科で学んで良かった」と答える生徒を育てる。 [アンケート結果 A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上]					
	・資格取得に興味をもたせ、積極的に取り組ませる。	・様々な資格取得に取り組ませる。 [2個以上の資格取得者 A:80%以上 B:60%以上 C:60%未満]					
情報工学科	・各種技能検定等の国家資格取得生徒の増加を目指した指導体制の充実	・多くの生徒が国家資格を取得できるように指導する。 [2年生取得者 A:35%以上 B:20%以上 C:20%未満] (昨年度18%) ・各種技能士資格の習得意欲を高め、技能検定試験合格者の増加を図る。 [合格者数 A:10人以上 B:5人以上 C:5人未満] (昨年度合格者数7人)					
	・学校の魅力や特色を発信する積極的な活動	・県内の小中学校や、市町村教育委員会の要望に応じて、連携によるロボットプログラミング教室等を実施することで、情報工学科の魅力や特色を伝える。 [2回以上/年] ・奈良県職業能力開発協会や県内企業等からの発表の機会に積極的に参加し、情報工学科の魅力や特色を伝える。 [2回以上/年]					
	・資格取得の充実	・主体的に資格取得について目標を立てることができるように導き、その達成を目指す。 [1年各種全商検定試験2級平均合格率40%以上 A:40%以上 B:35%以上 C:30%以上] [2,3生各種全商検定試験1級平均合格率25%以上 A:25%以上 B:20%以上 C:15%以上]					
商業科	・ビジネスマナーの習得と挨拶の徹底	・社会人特別授業などをおして、挨拶の重要性やビジネスマナーを身に付けさせる。体験的な学習で実践する。					
第1学年	・基本的生活習慣の確立	・挨拶を励行する。 ・遅刻、欠席、早退をさせない雰囲気づくりを行い、学年全体遅刻500回以下を目指す。 [A:300回以下 B:500回以下 C:600回以下] ・特別指導の絶無を目指す。 [A:5件以下 B:10件以下 C:15件以下]					
	・基礎学力の向上と成績不振者指導の強化	・原級留置生徒を出さない粘り強い指導体制を構築する。 ・良好な授業態度の保持と不振科目を作らせない雰囲気づくりを行う。 ・提出物指導を徹底する。 ・実技に関する科目の理解を進める。					
	その他	・部活動に積極的に入部させる体制づくりを進め、入部率70%を目指す。 [A:65%以上 B:55%以上 C:45%以上] ・配慮を要する生徒の対応については、保護者との連携を密にし、適切に行う。					

		・アルバイトについては、学校生活を優先させ、極力認めない指導体制を構築する。					
第2学年	・基本的生活習慣の確立	・挨拶を励行する。(教員から率先して行う。)					
		・予鈴(8時35分)での着席を指導する。					
		・遅刻、欠席、早退をさせない雰囲気づくりを行い、学年全体遅刻500回以下を目指す。 [A:500回以下 B:600回以下 C:700回以下] (昨年度1年生次770回)					
		・授業と休み時間のけじめをつける。					
		・朝食の大切さを理解させ、しっかりとるように指導する。					
	・基礎学力の向上	・授業態度の向上を図り、真面目に取り組むことが当たり前という雰囲気づくりを行う。					
		・授業の開始終了時刻を遵守し、引き締まった雰囲気の中で授業を実施する。					
		・ノート、課題、レポート等の提出に対する指導を徹底する。(担任と教科担当の連携)					
		・担任と教科担当の連絡を密にし、授業時の実態の把握に努める。					
		・成績不振者を出さない指導体制を確立する。					
	・進路実現に向けての取組	・常に卒業後のことを意識させ、妥協することのない進路指導を行う。					
		・保護者との連携を積極的に行う。					
		・進路指導部や各教科、関係機関との連携を密に図る。					
		・インターンシップへの参加率50%以上を目指す。 [A:50%以上 B:30%以上 C:10%以上]					
		・昨年度と同様に、メモを取る習慣を定着させ、PDCAサイクルを確立させる。					
第3学年	・基本的生活習慣の確立	・挨拶を励行する。					
		・遅刻、欠席、早退を減少させる。 [月5回以上遅刻する生徒 A:0人 B:10人以下 C:20人以下]					
		・保健室への来室を減少させる。					
		・スマホ等の依存を解消させる。					
	・基礎学力の向上と専門的知識や技術の習得	・追認指導なしでの全員卒業を最低目標とし日々の学習に取り組む。					
		・授業態度を向上させ、スペシャリストの育成を目指す。					
	・進路実現に向けての取組	・生徒の進路実現に向けて、意識を高める指導を行うとともに、適切な環境を整備する。 [教員による面接指導実施回数最低5回/1人]					
		・MSRの時間を弾力的に生かし、一般教養等の学習時間を確保する。					
		・全員の進路を確定させる。 [A:100% B:90%以上 C:80%以上]					
	・その他	・配慮を必要とする生徒の情報共有と共通理解を深め、進路指導を徹底させる。登校が困難な生徒に対しては課題等で補う。					
		・保護者との連携、特に、生徒指導上の取組に理解を求めながら、生徒の学校生活全般を充実させる。					
		・延期された修学旅行を9月に全生徒参加を目的に実施したい。					